

第4回ゼロカーボン研究会

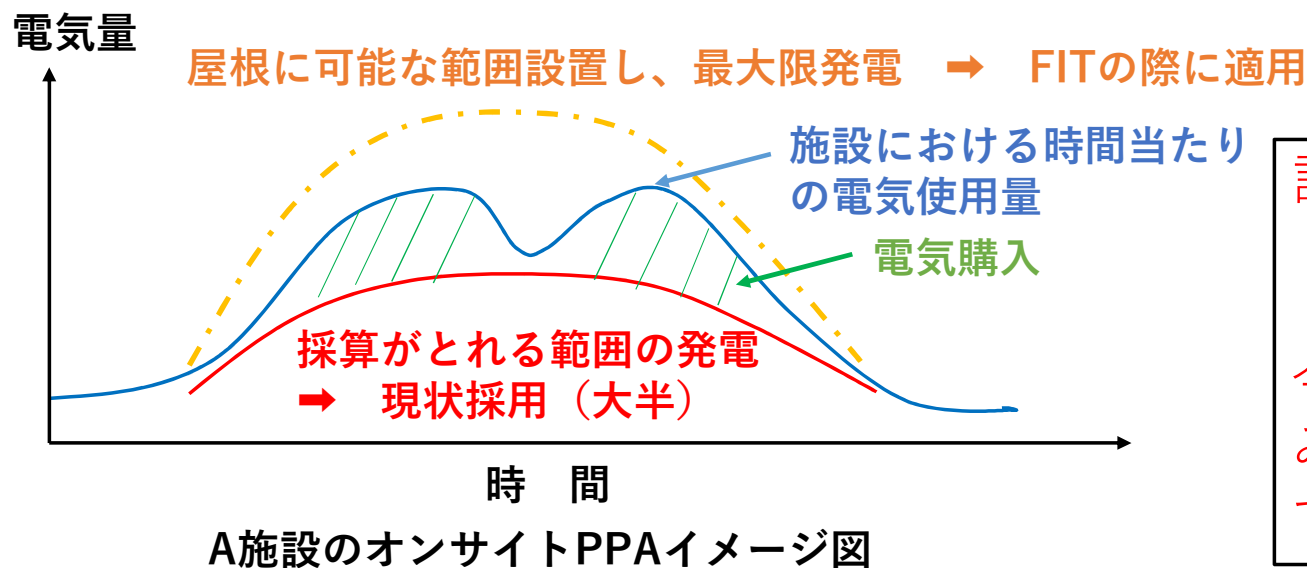
第4回ゼロカーボン研究会

将来ビジョンによって、「太陽光発電設備」の設計思想が変わってきます。

【本日の発表はPPAの実施事例を用いて、考え方等説明してもらいます】

現在、PPAによる実績の割合は、採算を見越したオンサイトが大半のようです。

- ➡理由：オンサイトで自家消費のみを検討した方が経済的に見合うから。
課題：①余剰電力を送電する際、託送料金が上乗せになり割高となる。
②現在、蓄電池等蓄電して利用するより購買した方が安い。



課題：

現状、オンサイトのみでの『ゼロカーボン実現』は難しく、今後、オフサイトを含めた仕組みを構築していく必要があります

「電気の供給・需要の方法」の選択によっても、システムが変わってきます。

【本日の発表後、今後のことも含めて議論していきたいと思います】

項目	発電場所名称	電気供給場所名称	備考	考え方
オンサイト PPA (事例発表)	A施設屋上	A施設内 (昼間)	自家発電・自家消費	昼間の需要電力量によって設置面積決定
オン・オフサイト PPA	B施設屋上	B施設内 (昼間) C施設内 (昼間)	自家発電・自家消費 自己託送による消費	設置可能面積によって設置面積決定
オンサイト PPA	D施設屋上	D施設内 (昼間・夜間)	蓄電池を利用した 自家発電・自家消費	1日の需要電力量によって設置面積決定
オン・オフ PPA + 地域新電力	E施設屋上	E施設内 (昼間) 民間F施設内 (昼間)	自家発電・自家消費 民間への託送による消費	地域のニーズ把握 現況システムの見直しも必要



今後、域内の「ゼロカーボン」を進めるためには、域内における民間の「再生可能エネルギーのニーズ」を確認していく必要があります。